

## 研究者部門

受賞者： くろき としお 黒木 登志夫 (81歳)

独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター 顧問



1936年1月東京生まれ。1960年東北大学医学部卒業。以来2001年まで40年にわたり、3カ国（日本、アメリカ、フランス）の5つの研究所（東北大加齢医学研究所、東大医科学研究所、ウイスコンシン大、WHOがん研究機関、昭和大）において、がんの基礎研究に従事した。その功績により、日本癌学会吉田富三賞、高松宮妃癌研究基金学術賞を受賞している。

2001年岐阜大学の学長に選出されると、改革派学長として、大学運営、病院経営に力を発揮した。特に、岐阜大学が導入した新しい人事制度は、大学運営の有効な手段として全国の大学が取り入れている。

岐阜大学学長を退官した2008年、72歳の時、政府の大型プログラム「世界トップレベル研究拠点プログラム（World Premier International Research Center Initiative, WPI）」のプログラムディレクターに就任し、医学生物学、材料科学、物理学、数学までの広範な分野を網羅する9つの研究拠点が我が国を代表する研究拠点となるのに力を注いだ。

東大定年後はサイエンス・ライターとしても活躍している。1996年に発表した中公新書『がん遺伝子の発見』は、不遇の時代の山中伸弥博士を力づけたという。70歳代に5冊の中公新書（『落下傘学長奮闘記』『健康・老化・寿命』『知的文章とプレゼンテーション』『iPS細胞』『研究不正』）を執筆、研究者のみならず一般にも広く読まれている。80歳の時に上梓した『研究不正』は、英文版に向けて翻訳中である。

推薦者： 黒川 清 政策研究大学院大学 名誉教授